

野菜の作業

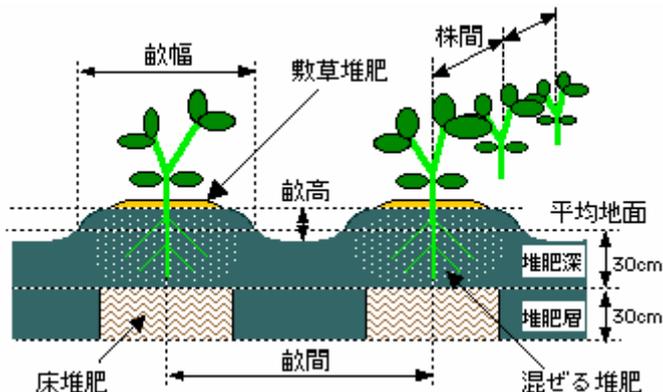
凍霜害の時期です。晩霜には気象情報を参考に万全を期しましょう！

旬	種まき	定植（植付け）	栽培のポイント												
上旬	播種 ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・ニラ ・チンゲンサイ ・エンドウ ・ダイコン(トンネ)	・レタス ・ジャガイモ ・ミョウガ	【バレイショの定植】 ・植付けが遅れるほど減収します。適期に植えられるように準備を進めましょう。標高500mでの植付け適期は4月上旬です。（100m上がる毎に5日遅らせます） ・施肥量：10㎡あたり堆肥20Kg・化成肥料1Kgを全面施用 ・栽植密度：うね幅60cm×株間30cm。 ・種芋は頂芽を中心とし50g程度に切って植えます。 ・黒マルチの使用は初期生育を速めるとともに除草にも効果的ですが、萌芽時に芽を焼かないよう注意が必要です。												
中旬	育苗 ・トマト ・ナス ・ピーマン ・キュウリ 温床線により13～15℃以上の夜温確保を行う！	・ブロッコリー ・チンゲンサイ （3月播種の苗） ・ウド（根株）	【アスパラガス収穫期の管理】 ・萌芽前の除草剤散布 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>除草剤の種類</th> <th>対象雑草</th> <th>処理時期・方法</th> <th>散布量（10a）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ロロックス(水)</td> <td>広葉雑草</td> <td>・雑草発生前</td> <td>150～200g</td> </tr> <tr> <td>トリアリイト®(乳)</td> <td>イネ科雑草</td> <td>・土壌全面処理</td> <td>200～300ml</td> </tr> </tbody> </table> 注意事項 ・10a当たり水100リットルに溶かし動噴で均一に散布する。 ・広葉、イネ科双方の雑草が多い場合は上記薬剤を混用する ・遅霜対策 スツ上げなしで換気と作業が効率よくできる保温資材「らくらくシート」をJAで扱っています。	除草剤の種類	対象雑草	処理時期・方法	散布量（10a）	ロロックス(水)	広葉雑草	・雑草発生前	150～200g	トリアリイト®(乳)	イネ科雑草	・土壌全面処理	200～300ml
除草剤の種類	対象雑草	処理時期・方法	散布量（10a）												
ロロックス(水)	広葉雑草	・雑草発生前	150～200g												
トリアリイト®(乳)	イネ科雑草	・土壌全面処理	200～300ml												
下旬	鉢育苗 ・オクラ ・モロヘイヤ 播種 ・スイートコーン ・カブ ・葉ネギ	収穫開始 ・アスパラガス	【スイートコーンの播種】 ・トンネル早熟栽培は4月上旬にポット播きをし、本葉3枚の頃、定植を行うと7月上旬に収穫が可能 ・露地マルチ栽培の「直まき」は4月下旬～7月上旬が播種期4～5回に分けて順次播種を行うと長期間収穫が可能。 ・施肥量：堆肥30Kg、苦土石灰1Kg、化成肥料1Kg(10㎡) ・栽植密度：うね幅90cm、株間30cmの千鳥播きで1穴3粒 ・間引き：本葉4枚の頃に1本に間引く(はさみで切る)												

野菜の質問コーナー

【質問】畝間・畝幅・株間の考え方を教えて下さい。また、堆肥の施用方法を教えて下さい。

- ・栽培床の幅を「畝幅」、栽培床の中心から隣の床の中心までの幅を「畝間」、株と株の間を「株間」と言います。（条間：栽培床の条と条の間）
- ・堆肥は全面に施用する方法もありますが、キュウリ等果菜類では右図のように床堆肥（待ち肥）を施用すると肥焼けが少なく効果的です。



野菜類栽培密度及び元肥施肥量（耕種基準）一覧表

野菜名（育苗・播種）		畝幅(cm)	条数 (条)	株間(cm)	10㎡当たり		
					株数 (株)	播種量 (ミリリットル)	元肥量 N-552(Kg)
はくさい	育苗	60～70	1	45～50	28～37	0.5	1.0
	直まき					7	
キャベツ	育苗	60	1	30～40	40～55	0.7	1.0
パセリ	育苗	135	2	15～20	70～90	0.7	1.2
レタス	育苗	120	2	25～30	55～66	0.5	0.8
カリフラワー	育苗	135	2	40～50	30～38	0.7	1.5
ブロッコリー	育苗	80～100	1	40～50	30～35	0.7	1.5
ホウレンソウ	丸種	110～140	6	4～6	700	50	0.8
	ネット種子					20	
しそ（赤・青）	直まき	120	2	15～29	800	2	0.5
こまつな	直まき	100～150	5	2～3	8000	20	1.5
野沢菜（つけな）	直まき	120～150	5	10～12	2500	7	1.3
シュンギク	直まき	100～150	6	15	400	30	1.5
チンゲンサイ	直播	100～120	4	10～20	4000	10	1.5
トマト	育苗	180	2	45	24	0.7	1.0
ミニトマト	育苗	180	2	60～45	18～24	0.4	1.0
キュウリ	育苗	300	2	55	12	2	1.5
なす	育苗	180	1	60	9	0.6	1.5
ピーマン	育苗	150	1	45	15	0.6	1.2
かぼちゃ	日本種	250	1	75	5	2	0.7
	西洋種					7	
白瓜	育苗	240	1	100	4	0.3	1.0
えだまめ	直まき	60	1	30	55	60	0.7
えんどう	直まき	90	1	50	22	60	0.85
インゲン	ツル有	200	2	45	22	60	0.85
	ツル無	120		35	47	80	0.7
オクラ	育苗	100	1	45	22	20	1.0
スイートコーン	直まき	150	2	30	45	80	1.2
だいこん	直まき	120	2	24～27	60～70	10	0.8
二十日だいこん	直まき	45	2	5	500～600	10	1.5
ニンジン	直まき	90	2	10～12	200～300	10	1.0
かぶ	直まき	100	4	8～10	400～500	8	1.2
ねぎ	育苗	90	1	3～4	400～500	1.5	0.8

※）株間は、間引き終了後の目安

単位の換算について

面積・・・1反=300坪=10a=1,000㎡　1畝=30坪=1a=100㎡　3坪=0.1a=10㎡

容量・・・1リットル=10デシリットル=1000ミリリットル

種の場合は、いまでも「一升」「一合」という単位が使われます。厳密には多少異なりますが・・・

「一升」を2リットル　「一合」を2デシリットル　「1勺」を20ミリリットルと概算しています

花の作業 【菊の管理】

夏秋ギクの早生品種は定植時期となります。

1) 定植の準備

- ・ 植え痛みを防ぐため、仮植苗は定植の10日前程度に良く切れる刃物を用いて根回しを行い、育苗施設内へ外気を入れ十分に順化(外気温への慣らし)を行っておきます。

2) 定植：栽植密度

床幅	通路幅	株間	条間	植え方
50～60cm	50～60cm	10～15cm	30cm	2条植え

果樹の作業

凍霜害に注意が必要です！

【燃焼法による凍霜害防止について】

寒さが厳しいときは、0℃になった時点で燃焼法を実施してください。この際、点火剤は10アール当たり30～40点配置し、風上側(傾斜地なら傾斜の上方)に多めに配置します。「小さな火で数多く配置」が基本です。点火資材は「シモダン」を使用します。ミルク缶利用の燃焼法などを活用し、園内の温度確保に努めてください。燃焼法による凍霜害対策を行った園は小面積でも確実に効果は上がります。

いずれの方法も燃料は灯油を利用してください。重油や廃油・古タイヤは黒煙がひどいため苦情が多く、燃焼法そのものが禁止されかねないので使わないでください。

水稻の質問コーナー

【質問】

昨年、水稻育苗中に円形に苗が枯れもみ枯細菌病と言われました。もみ枯細菌病を出さないための対策を教えてください。



答え：もみ枯細菌病は、文字通り細菌によって感染するイネの病気で発生適温は31℃以上の高温です。催芽機の普及により安定した育苗が行えるようになりましたが、催芽機の水温が上がりすぎると発病好適条件となり、また酸素の供給も充分されるため急激に発病することがあります。「どきどき情報3月号」でお知らせした種子消毒薬剤「テクリド C フォアブル」等で、種子消毒の徹底を図るとともに、催芽に際しては28～30℃を目安に行うと良いでしょう。また、昨年使用した育苗箱に「病原菌」が残っている場合もありますので、育苗箱を使用する前に「ケミクロンG」等の、農業栽培資材用の消毒液を用いて殺菌を行うと良いでしょう。

【浸種について】浸種は溜め水で行い、水量は種籾の2倍以上とします。浸種に必要な日数は水温の平均値を合計して100℃になる日数です。最初の2～3日は換水せず以後は1～2日おきに新しい水と交換し、酸素を供給して下さい。

【催芽について】充分吸水した籾を均一に発芽させるために「催芽」を行います。催芽は籾の膨らみ具合がハト胸程度(上記の図参照)目標とし、芽を伸ばし過ぎないように注意しましょう。

【以上、技術事項についての作成協力】

上小農業改良普及センター(担当:白石主任 電話 25-7157)